

コロナ禍かぞえ歌

斉藤 征雄

♪一つとや ひと夜明ければにぎやかで にぎやかで お飾り立てたる松飾り 松飾り

『正月数え歌』は地方によっていろいろな歌詞があるが、これはその一例である。わらべ唄なので、耳にすれば日本の原風景が心に浮かんで懐かしい気持ちになる。

数え歌といえば、春歌の代表でもある。かつては大学へ入りたての若人が、コンパで正月数え歌の替え歌を声を張り上げて歌ったものだった。

最近ではそのかつての若人が、老人会などで『ぼけ封じ数え歌』なる歌を唄うのが流行っているらしい。

去年はコロナに振り回された一年だった。年末年始も静かに家に居たので籠り居には辟易しているが、今年も我慢の毎日を覚悟せざるを得ないようである。

そしてコロナが収束したら、どんな世界が待っているのだろうか。「不要不急」が切り捨てられる世界なのだろうか。考えてみれば、私などの毎日の生活はすべてが「不要不急」に思えてくる。しかし「不要不急」ではあっても、大事なことはあるのだ。そう思わなければ生きてはゆけない。そんなことを考えながら、正月遊びにエレジー風の数え歌を作ってみた。

『コロナ禍かぞえ歌』 作詞 さいとうまさお

♪一つとや	広い地球を覆いつくす	覆いつくす	新型コロナの恐ろしさ	恐ろしさ
二つとや	二人や三人よいけれど	よいけれど	四人を越えれば密になる	密になる
三つとや	密は駄目よというけれど	いうけれど	宴会やめない人もいる	人もいる
四つとや	寄合飲み会生きがいに	生きがいに	してきた自分が懐かしい	懐かしい
五つとや	今やパソコンオンライン	オンライン	けなげに取り組む七十路	七十路
六つとや	向こう三軒両隣	両隣	家族で団らん当たり前	当たり前
七つとや	泣くな飲み屋やレストラン	レストラン	誰にも頼れぬ自助努力	自助努力
八つとや	やがてコロナも矛収め	矛収め	コロナ後世界の幕が開く	幕が開く
九つとや	心弾ませさあ飲もう	さあ飲もう	思えど身体がままならぬ	ままならぬ
十とや	とうとうここまでできたのかと	きたのかと	独りで静かに経を読む	南無阿弥陀